牧丘第三小学校

『感じ取ったことや考えたことを相手に伝える力を育てる指導の工夫』
～話す力を高める指導を通して～

Ⅰ．研究の内容

1．研究の見通し

教科学習において，話す力を高め，自分の感じたことや考えたことを伝える場面を仕組んだ授業を工夫することにより，相手に伝える力を育てることができるであろう。

2．研究の具体的内容

（1）感じたり考えたりしたことを相手に伝えることを取り入れた授業を工夫する。

（2）話すことの基本的事項や学年の発達段階に合った目標を明確にし，達成に向け取り組む。

（3）話す力について児童の実態を把握し変容を見取る。

（4）今日的な学習課題について学習する。（英語活動・機器活用の研修）

3．研究方法

・全体会を中心に進める。
・本や資料で学ぶ。
・全学年で授業公開を行なう。授業後の研究会で付箋紙を使ったグループ討議を取り入れ話し合いを深める。
・指導主事を招聘し指導を受ける。
・児童へのアンケートを基に児童の意識をさぐる。

4．実践内容

（1）授業の工夫（全員による授業公開と研究討議）

・1年　　生活科　「秋の発表会をしよう」　授業者　沼田　豊子

秋の自然に関わって，探す・集める・作る・遊ぶなどの体験を十分させ、それらの経験を振り返って発表する授業。参観してくれる人にうまく伝わるように練習して発表したり，その場で考えたことを発表したりした。

・2年　　算数「形に名前をつけよう」　　授業者　津野　千尋

三角形，四角形の概念を理解させ図形を分類する授業。電子黒板に映し出された形を見て「角がまるい」「辺で囲まれていない」など根拠を明らかにして説明する中で，「あっそうか」と気づいていた。図形を見ながら，説明する言葉を考えていくことが話す力を高めるのに有効であった。

・3年　　算数　「大きい数のわり算を考えよう」　　授業者　関口　若子

９０÷３の計算の仕方を考える授業。図やタイルなど考える手立てを用意し，児童の考えを引き出していた。タイルや図など具体物を使って考えを深め，説明することができた。

・４年　　理科　「水のすがたとゆくえ」授業者　竹川　俊之

水が沸騰したとき，水の中から出てくるあわは何か考える授業。エアポンプを使って空気を集めた場合と，沸騰させた気体を集めた場合を比較して，違いに気づかせていた。全員が自分の考えを発表したり，最後に分かったことを自分の言葉で話したりしていた。日下部小中村教頭先生より指導助言をいただいた。

・５年　　算数　「図形の角」　　授業者 藤原小百合

敷きつめる活動を通して，三角形の内角の和の理解につなげる授業。電子黒板を使って見せたことで，やり方がよく理解できた。実際に敷きつめる活動を十分させ，いろいろなやり方があることに気づくことができた。

・算数　「比べ方を考えよう」　授業者　清水　芳彦

距離と時間どちらもが異なる場合の速さの比べ方を考える授業。子どもが自分の考えを「表現」し「活用」する授業づくり，言語活動を高めるための指導などについて谷澤指導主事，小林指導主事より指導助言をいただいた。

（２）話すことの目標

学年ごとに児童の実態に即して，話す目標を決め，目標を達成するための手立てを話しあった。また，目標を児童にわかる言葉にして，教室に掲示した。児童の意識を高めることができた。

（３）話す力について児童の実態を把握し変容を見取る。

児童数が少ないので，一人ひとりをきめ細かく見取ることができた。一人の児童が発言発表する回数も多い。日々の授業の中での教師の見取りや子どもアンケートをもとに，研究会で全校の児童の実態について話し合うことができた。

（４）今日的な学習課題について学習する。

夏休みに電子黒板の使用方法について研修した。授業のどのような場面での使用が効果的か，実際に触りながら考えることができた。

Ⅱ成果と課題

教科学習の中で話す力を高めるために，話す目標や手立てを決めたことで，対象や内容が明確になった。また，発表する時に，相手意識・目的意識を持たせることで，発表の態度（声の大きさ・立ち方など）が改善され，発表内容もわかりやすくなり，よりよく伝えられるようになってきた。電子黒板を使ったり，活動を十分させたりすることで，気づいたことを伝えたり，考えを説明したりする力が伸びてきた。相手の伝えたいことは何か，要点について聞き取り，それについての自分の意見を考え伝え合うことについて，今後取り組んでいきたい。

Ⅲ成果物

・ 授業案

・ 話すことについての学年目標と教室掲示

（研究主任　沼田豊子）